# Art in Hospital

患者と医療従事者に優しい病院環境をつくる

## 地域のニーズに応えて3年で再生

### ⑭ 南多摩病院（東京都八王子市）

改修し生まれ変わった本館（左側の建物）と近代的な救急棟（右側）

南多摩地区で二次救急医療を担っている南多摩病院。終戦直後の医療機関不足を補うため、東京都国民健康保険団体連合会が1954年に設立。その後、経営が悪化したため、同じ八王子を拠点とし、永生病院などを経営する医療法人社団永生会に2009年に引き継がれた。

永生会は南多摩病院に救急・専門医療体制を整備するなど地域住民のニーズに応える施策を次々と打ち出し、事業承継から3年で黒字に転換。

例えば、都立八王子小児病院が府中市の小児総合医療センターに統合される中、南多摩病院は10年に小児科を新設。現在、24時間365日、小児救急を受け入れており、専門病棟（10床）も設けている。

12年には地下1階、地上8階建てで免震構造の救急棟を開設した。ER（救急救命室）や循環器センターを整備。南多摩病院は東京都地域救急医療センターに指定されており、年間救急車搬入台数6000台を目指している。

また、感染症入院患者を受け入れる施設が周辺に少ないため、都の感染症診療協力医療機関の指定も受けた。感染症患者に対応するため陰圧処置室を整備。パンデミック（感染症の世界的大流行）に対応するため、救急棟の正面玄関廊下と8階の職員食堂兼大会議室に酸素や吸引の配管を行った。

職員食堂のメニューはどれも270円と廉価。天井が高く、開放感にあふれ、月1回開かれる市民公開講座には多くの市民が訪れる。

昨年は本館（地下1階、5階建て）を改修し、人間ドックセンターを新設した。一般外来とは動線を画し、個室の待合室も設けてプライバシーに配慮した。個室の待合室は広く、テレビも備え付けられている。「少しでもゆったり過ごしてもらえるようにしました」と中野雄介事務部主任。アジアンリゾートをテーマにしたデザインは心癒やされる。

また、3.11の際、福島の透析患者を受け入れた人工透析センターは、本館改修に伴って増床した。坂野隆一郎事務部長は「入院透析、手術を伴った透析にも対応していきたい」と話す。現在の病床数は本館と救急棟を合わせて170床になった。

東京のベッドタウン、八王子。市内の大型団地にも高齢化の波が押し寄せており、南多摩病院は地域住民の健康を守っている。

明るく清潔な雰囲気のロビー

現在37床の人工透析センター。42床まで増床する予定

アジアンテイストの人間ドックセンター。個室の待合室も整備

感染症対策のため陰圧処置室を備えたER

明るくゆったりした小児病棟のプレイルーム

開放感あふれる職員食堂兼大会議室。パンデミックに備え、酸素や吸引などの配管も施されている